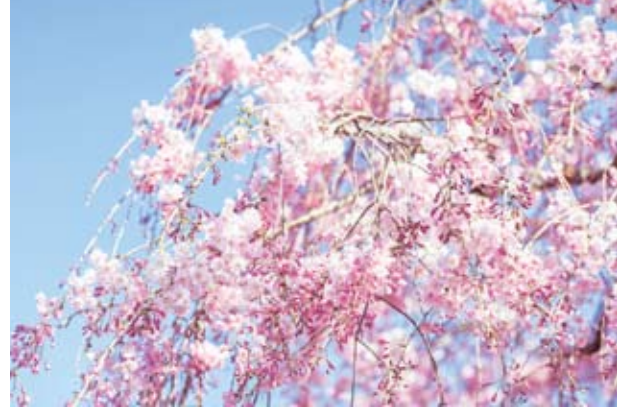




あの日、あの人と、あの場所で、あの時間に見た桜。桜は見るたびに、違う表情を見せてくれます。だからこそ、「桜を見る」という行為は、どこか特別で、心を満たしてくれます。

そんな桜も、いまでは花の代わりに葉を揺らしています。来年は、どんな桜が見られるだろう。どんな思い出をつくることができるだろう。そんな気持ちを胸に、人々は、来る夏を、楽しみに待ちます。



加東桜だより 市内の桜たち

今年も桜前線が通過した加東市内。例年よりも、見物客が少ないなか、変わらず凛と咲き誇る姿は、私たちに何事にもゆるがない強さを示してくれているようでした。



桜が咲き出したころ、市内は春の訪れを歓迎するかのような、青空に包まれていました。太陽の光が透き通り、風に揺られる桜の花。花を乗せて、吹き抜けていく春風。そして、水面でもなお、その美しさを失うことなく漂う桜の花びら。すべての「自然」が語りかけるように、私たちに、春を教えてくれました。



新任職員12人を採用

市では、令和2年度新任職員12人を採用しました。

4月上旬に実施した研修では、公務員として必要な知識や、システムの操作方法などを学びました。

研修を受けた安達麻衣さん(社会福祉課)は、「研修では、公務員としての心構えや、市民のみなさんの権利を守ることが公務員の仕事であるということを学びました。これから、経験を積み重ねて、市民のみなさんや困っている人に寄り添える公務員になりたいです。」と話してくれました。



後列左から

藤原彩、岡田美智、今岡史智、山副奈央、安達麻衣、高橋奈那子

前列左から

西村治将、藤田拓斗、奥山諒、新地翔太、岡嘉也、宮城太一

